

お釈迦さん・阿弥陀さん・そして

わたし **私が佛と成る** (NO 5)

9月号(201号)では、ご本尊について考えてみました。真宗寺院の本尊もご門徒宅のお内佛(佛壇)の本尊も同じ阿弥陀如来です。木像彫刻か絵像の違いがありますが、おはたらきには違いはありません。

文章にしますと学び難いものです。佛法は聞く以外に道がありません。正行寺では毎月28日昼1時30分から「ご命日のつどい」と云って佛法を語っています。どうぞ参加下さって、疑問を投げかけて下さい。よろしくお願ひします。

今回は、**私が佛と成るとは一体どおいうことか？**たずねてみます。最初に断っておきますが「死ぬこと」ではありません。

親鸞の考え方

信心を得る。

真実の他力信心を阿弥陀佛から与えられる。

阿弥陀佛の救いが約束される。

阿弥陀佛の願ひにより、浄土へと導かれる。

死を待つことはない。

信心を得た時には救われている。阿弥陀佛の絶対の他力によってたすかっている。

現生正定聚

現世で煩惱を棄てられなくとも、阿弥陀佛の救いにより、無限な慈悲の中にいるのだから、信心を得た時に生きていながら佛に成ることが決定している。

往生とは？

一般世間では、西方極樂浄土に生れること、往生は現世において死であり、人間が死んで阿弥陀佛の国に生まれることが成佛と考えられている。

死んだ後、現世での生死を超えた佛性の世界＝阿弥陀佛のいる西方極樂浄土へと行くことととらえられる。

即 得 往 生

そくたくおうしやう
即得往生というは、即は、すなわちという、ときをへず、日をもへ

だてぬなり (一念多念文意)

(意訳) 佛説阿弥陀経に「即得往生」とでています。即は、同時にという意味を持っています。阿弥陀佛から与えられた信心を受け入れた時(受容したとき)正定聚(しようじゆ)の位につきささまるのは、同時なのです

法然上人以前は、死んだ後、阿弥陀佛のいる西方極樂浄土に生れることを往生と捉えています。親鸞聖人は、さらに違う往生の捉え方をされています。

親鸞聖人は、浄土に往生することが確実ならば、「正定聚」の位に定まるとしていません。「即得往生」は信心を得れば、すなわち往生するということです。

信心の利益について、法然上人らは、死後、来世において浄土に往生すると説きました。しかし、親鸞聖人は往生を現生(いま・ここ)における利益として理解しました。「正定聚」のくらいにさだまる、「不退転」に住することを獲得しているのだから、信心の人は現生にて往生していると説いています。だからこそ、この不動の信念に立って、苦惱の人生も飲んで歩んでいける、そんな力強い、生きる喜びを与えてくれるのが「即得往生」です。

写経のご案内

近頃は書き写すということをしなくなりました。書き写す行為は、注意を払わねばなりません。ほんの一時、やってみませんか。

毎月五日・二十五日の両日。

時 間 午後二時から三時半

教 材 寺で用意しています。

会 費 教材費 毎回 五百円

※ 念珠・筆のみご持参ください。